

ハワイ語新聞の言説分析

A discursive analysis of Hawaiian language newspapers

古川 敏明

Toshiaki Furukawa

大妻女子大学文学部

Faculty of Language and Literature, Otsuma Women's University

キーワード : ハワイ語, 新聞, 言説分析

Key words : Hawaiian, Newspapers, Discursive analysis

1. 研究目的

ハワイ語は先住民語としては例外的に膨大な文書, ハワイ語で書かれた新聞が残されている。本研究はハワイ語新聞を資料とし, 特に日本・日本人・日系人に関する記事のデータベースを構築して, 内容を分析する試みである。本研究は昨年度の戦略的個人研究費により開始され, 本年度の計画は複数年にわたる研究計画の2年目に位置づけられる。日本国外ではハワイ語新聞が学術研究に利用され始めているが, それらは主にハワイ先住民に関する研究であり, 日系移民など他民族に関する研究はほとんど行われていない。一方, 日本国内では日系移民についての研究の蓄積はあるが, ハワイ語新聞が資料として用いられることはなかった。

本研究は新資料としてのハワイ語新聞の分析を通じて, その中で描かれる民族間関係の事例を積み重ね, 日系移民史研究などの関連領域に新たな視点を提示することである。記事のコレクションと翻訳の構築には, インターネット上のデータベースを利用した。

2. 研究内容及び成果

本研究は複数年の研究プロジェクトの2年目にあたる。昨年度はインターネット上のデータベース, パパキロ (Papakilo) を利用し, ハワイ語新聞の英訳データベースの構築に着手した。今年度は2015年6月から2016年2月まで, リサーチアシスタント2名を雇用し, ハワイ語記事の翻訳に取り組んだ結果, ハワイ語新聞からの記事を30本英訳することができた。記事の総語数は約5,500語となる。記事の発行年代としては, 1870-90年代が4本, 1900-1940年代が26本となり, 20世紀に

発行された記事が大半を占めた。研究代表者は原文と翻訳を参照し, 記事の言説分析を行った。記事のトピックとしては, 19世紀から20世紀初頭にかけて日系移民にまつわる事故・事件が最も多く, 1940年代ではほとんどが太平洋戦争の戦況を報じる記事となっていた。

以下では, 日系人に関する1916年12月1日の記事を具体例として取り上げる。記事が掲載されているクオコア紙 (Ka Nupepa Kuokoa) の一面を示す。



図1. Ka Nupepa Kuokoa (Page 1)
出典: Ho'olaupa'i (nupepa.org)

次に記事の見出しと本文を示す。上記一面には7つの欄があるが, 右から2番目の欄の下部に掲載されている記事である。

**KA HUI UNIONA A NA LUINA
KEPANI.**

Ma ke Sabati iho nei i kukulu ae ai na luina Kepani o na mokuahi i Hui Uniona knokoa na lakou. O na lala o ia hui oia ka na luina apau o na mokuahi holopiliaina a no lakou ka ka nui he 120. O ko lakou keena oihana no ka manawa aia ma ka halekeeka Kepani ma Kapalama. O S. Yoshioka ka i ko-hoia i peresidena, S. Yonemoto ka hope peresidena, S. Goto ka puuku, a o T. Nazano ke kakauolelo. Kanaka makua ka hana a na Kepani la!

図 2. 記事

出典: Ho'olaupa'i (nupepa.org)

記事の見出しは「日本人船乗りたちの労働組合」となっており、日系移民による労働組合設立について報じている。

【本文訳】

先週の日曜日に蒸気船の日本人船乗りたちが自分たちで独立した労働組合を設立した。この組合の構成員は諸島間を運行する蒸気船のすべての船乗りたちであり、彼らの人数は 120 人である。現在のところ、彼らの事務局はカパーラマの日本劇場に置かれている。O. S. ヨシオカが会長、S. ヨネモトが副会長、S. ゴトウが財務、T. ナザノが書記に選出された。日本人船乗りたちの行いは実に成熟している！

記事は日系の船乗りたちが設立した労働組合について報じ、組合員数や組合幹部の氏名にまで言及している。この記事はいくつかの点で興味深い。

まず、ハワイの民族集団のひとつに過ぎない日系コミュニティ内部の出来事がハワイ語新聞の読者に届けるべきニュースとして取り上げられているという点である。これは当時のハワイ住民にとって蒸気船が重要な交通手段であったので、日系以外の民族集団にとっても知るべき内容とされたのかもしれない。

また、組合設立がハワイ語読者にとってニュー

スであるとされたのは、記事を締めくくる最後の一文に示されているともいえるだろう。記事は労働組合を設立した日系移民の一連の行いを成熟

(kanaka makua) した行いであるとして称賛し、強調 (!) までしているのである。日系移民と先住民をはじめとする他の民族集団を比較しているかは定かでないが、少なくとも日系移民の行いに肯定的なまなざしが向けられている。昨年度の報告で取り上げた「日本人は抜きん出ている」という見出しがつけられた記事では、日系移民が集団内で婚姻することが多く、それが集団を維持することにつながっていると評価していたが、このように日系移民をハワイ先住民にとってある種のモデルとほめかすかのような言説はハワイ語新聞における特徴のひとつであるといえるだろう。

最後に、記事の情報源についての疑問がある。この記事に限ったことではないが、ハワイ語新聞の編集者と記者たちが日系コミュニティの人々に取材をしたということは考えにくいように思う。ハワイ語新聞はハワイ内外のさまざまなニュースを掲載しており、これだけ広範な内容の紙面を実現するには、主要な英語新聞だとか、日系コミュニティが発行する英語新聞を参照していたと考える方が自然だろう。

3. まとめと今後の課題

本研究はハワイ語新聞記事の中でも未開拓の日本関連記事に特化して収集し、翻訳のデータベースを構築してきた。昨年度から今年度まで 2 年間で合計 66 本の記事（総語数 約 9, 000 語）を翻訳し、データベースに追加することができた。今後の課題は以下の 2 点である。

データベースに含まれる記事の発行年代をみると、20 世紀前半のものが多くなっているため、日本からの官約移民が行われた 1880 年代、私約移民へと移行した 1890 年代など、日系移民がハワイにおける民族集団として存在感を増していく 19 世紀後半の記事をより多く収集・分析していくことが今後の課題である。

本研究ではさまざまなハワイ語新聞から記事を収集しているが、それぞれの新聞の編集者たちがどのような人物であるかといった情報が不足している。こうした情報を整理することは記事の分析を進めていく上で有益だと考えられる。

(2016 年 3 月 31 日現在)